



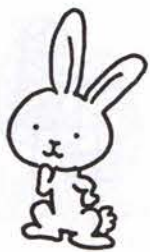
留萌市立病院は高齢化が進む地域の中核病院として、ますます、きめ細かいサービスと質の高い医療が求められています。しかし、



市立病院が留萌医療圏の地域センターとしての役割を果たすために

▼病院建設基本調査委託事業 (2千550万円)

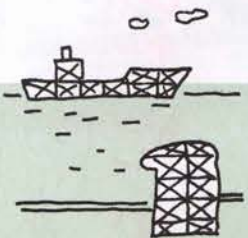
ちよつとした通院の多い、小さな子どもたちが安心して医療にかかれるようにと考えています。



乳幼児の医療は安心

▼乳幼児医療費助成事業の拡大 (500万円)

乳幼児の医療費の助成は、今まで入院は6歳未満児まで、通院は2歳未満児までで、北海道の要綱に基づいていましたが、今年度から市が助成することで、一歳拡大し、通院を3歳未満児までとしました。



21世紀の鼓動—まちが走る!

—未来に向う留萌市をつくる— 平成8年度 新規事業と、すすめている事業のあらまし



市民参加のまち

さあ!!これからの10年の構想・計画

▼新長期計画策定事業 (865万6千円)

平成9年4月からの10年間のまちの方向性を定める、あたらしい総合計画の基本構想・基本計画をつくっていきます。昨年、まちづくり市民会議をつくり、公募による133人のみなさんにさまざまな意見をいただき、市民生活に密着した提言書をまとめています。市民の声を反映した総合計画づくりをすすめます。

世界に広がる出会いをめぐして

▼ウラン・ウデ市開基330周年記念式典参加事業 (169万円)

昭和48年ロシアのウラン・ウデ市と姉妹都市提携をしています。本年7月にウラン・ウデ市開基330年を迎え、記念式典が挙行されますので、市として代表団を派遣いたします。

▼留萌ジュニア大使海外交流事業 (194万円)

平成4年11月、留萌高校とカナダコートニー市のバーニア高校と

現在の施設は老朽化がすすみ、また、国道拡幅事業により、建物の一部が欠けてしまっていますので、早い機会に移転改築することが必要と考え、病院建設の基本計画に着手します。

▼医療機器整備事業 (800万円)

医療機器(手術用顕微鏡・エコーカメラ他)を整備し、診療体制の充実をはかります。

▼救急患者搬送事業 (1千179万3千円)

救急患者を他の医療機関に、救急自動車でするシステムをはじめます。

▼お年寄りの方が安心してゆつたり

▼デイサービス特殊浴槽整備事業 (490万円)

昨年、福祉施策の推進をはかり、「在宅介護支援センター」のオープン、「ショートステイ」の実施など行なってきたておりますが、「留萌市老人保健福祉計画」に基づき、在宅の手助けが必要なお年寄りにゆつたり入浴していただける特殊浴槽をデイサービスセンターに設置し利用していただきます。

▼地域福祉推進特別対策事業 (1千255万円)

友好校として交流をすすめることにしました。今年にはサッカー少年団を派遣し、青少年との交流試合を通じ、異文化体験をしながら、国際感覚豊かな人材育成をすすめていくこととしています。

▼開基120年、市制施行50年、開港60年記念事業 (422万2千円)

留萌市は平成9年に開基120年、市制施行50年、開港60年という歴史上大きな節目を迎えます。記念事業の準備をすすめる、皆さんが参加できる各種記念事業の検討を続けていくこととしています。「あたらしい留萌の市史(仮称)の発刊にとりくみます。

▼全国・世界の留萌市へ

▼インターネット通信事業 (220万円)

今、インターネットは情報収集・発信の話題を独占しています。高度情報化時代に対応し、広く情報収集をし、港湾都市としてのポータルセールスや産業・観光・地域情報を発信して、北海道西海岸のイメージアップを図ります。

市役所の正面玄関のドアは重く、来庁する方にご不便をかけておりましたが、自動ドアにし、利用されやすくなります。また、冬期間道路凍結で危険性がありましたので、ロードヒーティングをし、安全なスロープにします。

▼安心できる市民生活のために

▼留萌市防災行政無線システム整備事業 (1億1千664万円)

昨年5月に震度4の中震が留萌市を襲いました。まさかの防災を考え、体制づくり、災害時応急生活物資供給システムなど進めています。防災無線は市内100か所に受信機を設置し連絡体制をつくり、屋外にスピーカー24台を設置し緊急時に情報を流します。

▼赤外線カメラシステム整備事業 (800万円)

救急体制は、救急救命士の養成をしており、現在4名の救急救命士がおります。消火体制の中で、救助活動、消防活動を迅速に行ない、残り火の確認などのために、赤外線カメラシステムを導入します。



生活環境

安心して暮らす市民生活のために

▼留萌市防災行政無線システム整備事業 (1億1千664万円)

昨年5月に震度4の中震が留萌市を襲いました。まさかの防災を考え、体制づくり、災害時応急生活物資供給システムなど進めています。防災無線は市内100か所に受信機を設置し連絡体制をつくり、屋外にスピーカー24台を設置し緊急時に情報を流します。

▼赤外線カメラシステム整備事業 (800万円)

救急体制は、救急救命士の養成をしており、現在4名の救急救命士がおります。消火体制の中で、救助活動、消防活動を迅速に行ない、残り火の確認などのために、赤外線カメラシステムを導入します。

▼一般廃棄物処理施設整備事業 (17億9千663万3千円)

現在使用中のごみ処理場は平成5年度から3カ年で浸出水処理施設、周辺の整備等を行っています。7年度から、ごみの再資源化や環境を考えた新しい処理施設を藤山町に建設中です。可燃ごみを固形燃料にしたり、生ごみを堆肥化するなどリサイクル時代に対応した環境学習機能を整えた施設で、平成10年度使用に向け取りくんできています。

▼ごみ減量化・再資源化推進事業 (1千162万2千円)

分別収集モデル地区を決めて実施しています。今年には栄町・開運町の中央地区です。地区指定を始めてから5年目で、市全世帯の25%にあたる3千世帯の方々に7種分別に取りくんできていただくこととなります。平成9年度には全市分別収集実施の予定です。

やすらぎある、あたたかなまち

在日外国人高齢者が住みよいまち

▼留萌市在日外国人高齢者福祉給付金支給事業 (36万円)

留萌市に住んでいる70歳以上の在日外国人の方で昭和57年1月1日前引き続き外国人登録をし、留萌市に1年以上居住している方で、公約年金を受けていない方に月額1万5千円(年額18万円)の給付をいたします。

▼障害がある方にとっても住みよいまち

▼障害者福祉計画策定事業 (181万円)

障害を持った方々がノーマライゼーションの基本的な考えに立って地域とともに生活できる基本計画を策定します。

▼精神障害者地域共同作業所運営費補助事業(交通費一部助成事業) (66万3千円)

精神障害を持つ方々が小規模作業所に通っていますが、障害のある方にとって交通利用は重要な問題です。その交通費の一部を助成するものです。



あたらしいごみ処理施設で環境を守る

▼一般廃棄物処理施設整備事業 (17億9千663万3千円)

現在使用中のごみ処理場は平成5年度から3カ年で浸出水処理施設、周辺の整備等を行っています。7年度から、ごみの再資源化や環境を考えた新しい処理施設を藤山町に建設中です。可燃ごみを固形燃料にしたり、生ごみを堆肥化するなどリサイクル時代に対応した環境学習機能を整えた施設で、平成10年度使用に向け取りくんできています。

▼ごみ減量化・再資源化推進事業 (1千162万2千円)

分別収集モデル地区を決めて実施しています。今年には栄町・開運町の中央地区です。地区指定を始めてから5年目で、市全世帯の25%にあたる3千世帯の方々に7種分別に取りくんできていただくこととなります。平成9年度には全市分別収集実施の予定です。